

楽しい・力がつく・つながる古典学習を求めて

「コンピュータを用いた読むことの学習」

《提案者》 島根県木次町立木次中学校 久村真司

## 1 実践の意図

現在、古典学習を取り巻く状況には厳しいものがある。古典嫌い、古典離れ、古典軽視などの指摘を耳にすることも多い。また、生徒たちは、古典の中に表現されている季節感や心の動きなど、ものの見方感じ方についての経験が乏しく、実感をもって文章を読み進めたり内容に感動したりすることが少ない。そのような生徒たちだからこそ、古典の面白さを知ってほしいと思う。さらに、授業で鍛えた国語の力が、以後の言語生活に生かされればと願う。そのような願いから、どの生徒にも「学習」が成立し、実感や感動を持って古典を読むことができ、さらに国語の力がつき、豊かな言語生活につながっていくような古典学習を目指して本実践を行った。

## 2 実践例

### (1) 単元名「～少納言になろう」

#### ① めあて

- ア. 二色テキストを使って個人で朗読したり、グループで協力しながら朗読したりすることと、それを録音し Web で公開したりすることを通して、内容の基本的な理解をするとともに、楽しく意欲的に朗読することができる。
- イ. 枕草子の文章構造を変換することを通して、省略された表現の意味を理解し、表現効果を実感することができる。
- ウ. 四季をテーマとした詩を作ることを通して、季節を表す「もの」や「こと」を発見したり、心情を季節の「もの」や「こと」にたくして表現したりすることができる。

#### ② 学習計画

段階	学 習 活 動	時数(3)
1	朗読ファイルを作ろう	1
2	「枕草子」を読む 活動①枕草子を詩にする	1
3	～少納言になろう 活動②自作詩を作ろう	1

#### ③ 生徒の感想

##### 清少納言・枕草子と自作の詩とを比較して

- 例1. 自分の詩と清少納言の文章を比べて、同じ所は、四季の美しさ穏やかさを歌っていること。違う所は、恋の歌かそうでないのかということ。
- 例2. 自分のは、それぞれの季節で自分が思った代表的なものを書いた。枕草子は季節を一日のある時間帯にあてはめて書いてあった。
- 例3. 自作詩で工夫したことは各季節に『色』を入れたことです。（春は一つに絞れなかったので、色とりどりになってますが。）枕草子に似ている事は自然をたとえた事です。川、海、山、空としましたが、冬は何にするかなかなか決まりませんでした。

～少納言になろう 生徒の作品

四季折々

H・N

春は桜。  
ヒラヒラと舞いちる桜の花は、  
春のおとずれをしらせてくれる。

夏は青葉。  
キラキラと光る太陽を、  
うけとめてくれる青葉。

秋はコスモス。  
ユラユラと揺れているコスモス、  
風とダンスしてる。

冬はスノードロップ。  
チラチラと降る雪  
雪の下には小さな花スノードロップ。

無題

M・K

春は川  
雪がとけてゆっくり流れる  
小さな魚も泳いでる  
暖かな風がふいて  
色とりどりの草花がゆれる  
夏は海  
ギラギラ太陽が照りつけて  
水がきらきら光る  
青い海の上には真っ白な入道雲  
そのあいだで  
みんなが海水浴を楽しんでいる  
秋は山  
葉が色づいて  
山ぜんたいが赤くなる  
栗やぎんなんなどの木の実を食べ  
に  
動物たちがやってくる  
冬は空  
真っ白な雪が  
次から次へと降ってくる  
晴れた日の夜の空は  
星がよく見える  
青の中に数えきれないほど  
いろいろな色がつまっている

あなたに捧ぐ

T・I

春は 野の花  
花咲く場所に  
ふたり ならんで  
きれいに咲いた  
恋の花も  
まだまだ つぼみの  
ふたつの夢も  
寄り添い会って 見ていよう  
風に吹かれても  
折れないように

夏は 森の樹  
木洩れ日の下で  
ふたり 眠ろう  
小鳥のさえずりは  
愛の歌  
木々のざわめきは  
子守り歌  
ふたりだけのため  
世界は在ると  
今はただ素直に  
そう思えるよ

秋は 並木道  
セピア色の中  
ふたりでずっと  
歩いていた  
いっしょに踊ろうか  
落ち葉のダンス  
風と戯れて  
詩を歌えば  
私達だけの ダンスパーティー  
可愛い小鳥がお客さん

冬は わた雪  
そっと手のひらに  
降りてきては溶けていく  
心と夢のカケラたち  
この中に有るどれかひとつ  
あなたの心と夢のカケラ  
ふたりで探そう  
いっしょに見つけよう  
心の中にしまっておくから

～少納言になろう 学習記録より

- 例1. 今日はいつもより「たくさん」自作詩を書いた。とてもいい気持ちで一時間がおわった。でも、私は、まだ、たくさん「パソコン」をうちたいです。
- 例2. 今日はたくさん書けてよかった。それに、朗読を上手に読めるようになりたい！！（2組の I さんみたいに）でも、I さんはとても上手だから、手本にしたいです。（なぜ、あんなに上手に読めるのか??）
- 例3. 今日は枕草子の、「詩」が全部書けてよかった。それと、自分で考えて「詩」を作るのは、いい勉強になると思った。今までは、ただ有名な人が作った、「詩」などを読むだけだったから、なんか

この勉強の仕方は気に入った。

例4. 今日は自作詩を書いた。初めは、何を書いていいのかわからなかったけど、自分の思ったことを先生に言われたとおりに省略して書いた。

例5. 今日はいろんな人の詩を読みました。短くて、わかりやすい詩や、長くて言いたいことがたくさんありそうな詩など、いろいろあって楽しかったです。

(2) 大単元名「表現を考えよう」(太線部分が「おくの細道」の学習)

① 学習計画

段階	学 習 活 動		時数(20)
1	「猫の動物学的宇宙誌」を読んで無季定型俳句を作る		5
2	無季定型俳句をいれて作文を書く		1
3	俳句の学習	帯単元 技を使って表現しよう	5
バーチャル紀行	4	「おくの細道」を読む(1) 活動①「おくの細道」に自作の句を付け足す	帯単元 もっと見つめて じっと見つめて (三行文日記を書く)
	5	「おくの細道」を読む(2) 活動②ホームページを見て俳句を作る	
奥・出雲の細道	6	奥・出雲の細道を作る 活動③三行文日記を元に「奥・出雲の細道」を作る	3
	7	「奥・出雲の細道」を鑑賞する	1

② めあて 小単元名 バーチャル紀行 (上記学習計画の4と5)

- ア. 芭蕉とともに旅立つつもりになったり、平泉を訪れたつもりになったりすること(=バーチャル紀行)を通して、場面の情景や芭蕉の心情を読み取って作句することができる。
- イ. Web や掲示板で句を公開することを通して、表現や創作意図や解釈の交流を促し、他の見方や考え方を自分の表現や考え方に生かすことができる。
- ウ. 学習活動全体を通して、芭蕉の見方や考え方、表現の仕方に興味を持ったり、面白さに気づいたりできる。

・生徒が学習計画の4で作った句

松島の月を抱いて旅支度  
そぞろ神人にとりつき旅支度  
奥州へ予を招きたり道祖神  
片雲の風に誘われ旅へ行く  
旅で死ぬ古人に憧れ旅に出る  
旅支度股引笠と念入りに  
弟子たちに表八句の後継がせ  
我が家見て決意確かめ旅に出る

・生徒が、平泉のHPを見て(学習計画の5)作った句

北上は四季折々と姿変え  
毛越寺祭りでにぎわう花の寺  
花々を両手に抱える毛越寺  
木漏れ日がきれいに照らす月見坂  
花の寺つつじや梅の毛越寺  
義経堂樹に包まれた丘の上  
空の色こぼれて落ちる月見坂

生徒の感想(学習計画4に関するもの)

例1. 私は、買い物とリメイクのそぞろ神が呼んでいます。

例2. 僕は「音楽のそぞろ神」か・・・

例3. 芭蕉の変った表現が良かった。

例4. 芭蕉は、そんなに旅が好きだったのか。僕も旅がしたい。

例5. 絶対俺の句が推薦されると思ったのにK君のになった。かなりくやしかった。こうなったら次の俳句でリベンジだ。

例6. 良い俳句が作れた。自分もびっくり他人もびっくり。これからも良い俳句を作りたい。

### 生徒の感想（学習計画5に関するもの）

例7. いろんな人がいい俳句を作っていてすごいなと思った。

例8. みんなのを読んでたけど、いろんなのがあって、楽しかったし、参考になった。

例9. みんなの俳句は自分の気に入った場所や物を使って作っていていいと思いました。

例10. K君らしい俳句を作っているなと思いました。

例11. 金色堂をはじめてみた。さわったら、あつそうな建物だ。

例12. 今日は、俳句をつくった。最初、「曾良日記にも書かれなかった毛越寺」と書いてあるのを見たときからこれを書こうと思った。当時は、荒れ果てていたらしい。

例13. 義経の資料で面白いのがあった。最後まで読めなかったので、最後まで読んでみたい。

例14. 「芭蕉が行った場所。」なんちゃって。今日は、おくの細道の題材？のホームページを見た。どこも良い景色で旅に出たい気持ちがよく分かった。

例15. 今日は「月見坂」で2つ俳句を作った。自分も実際の場所に行って俳句を作ってみたい。

### ③ 小単元 奥・出雲の細道（上記学習計画の6と7）

#### 帯単元 もっと見つめて じっと見つめて（3行文日記を書く）

### 3 行文日記 生徒の感想

例1. なかなか書き出せなくて、いかに普段何も見ていなかったんだ、と思いました。

○すごくいい気づきです。アンテナを張って、「もの」や「こと」を見つめると豊かな生き方ができると思います。

例2. 普段の生活のことで、なかなか思い浮かばなかったです。何気なく生活している証拠だと思いました。これからは周りの出来事に敏感になろう。

例3. 3行日記を書くときに季節などを思い浮かべて考えると書きやすかったです。

例4. 今日はちょっと残念なことがあったので、その事を書きました。感情の表現を工夫してみようといういろいろ考えたけど、あまりいい表現が出来なかったのもっとうまく表現出来るようになりたいです。

### 3 行文日記 生徒の作品

例1. テニスコート側に、アリの巣を見つけました。アリが行き来していました。冬には無かった発見です。

例2. 昨日は朝は雲が無く、昼に少し雲が出てきました。でもすぐに雲は無くなりました。雲は動くのだということを実感しました。

例3. 今、理科で天気について勉強していて雲のこととか習ったから、私も暇があれば空を見るようになった。風に流されて雲の形がどんどん変化したりして見ていて飽きない。新しい世界が広がってうれしい。

例4. 最近夜が寝苦しい。一つしかない扇風機を兄と取り合いをした。夏は戦争を家にもたらした。

例5. この前、学校から帰る時に鼻の奥まで通るいい匂いの風と出会った。大きく息を吸ったり、はいたり、走ってみたりした。すごく気持ちが良くて体が軽くなった。

○ Kさんにぴったりのさわやかな内容ですね。「鼻の奥まで通る」という表現が、匂いのさわやかさをうまく表しています。第2文で、具体的な行動で匂いのすばらしさについて表現しているところがとてもいいです。第3文の「体が軽くなった」というのは、いい匂いに出会ったことのある人ならすごく共感してくれると思います。

### 奥・出雲の細道 生徒の感想

例1. 今日の授業は、楽しかった。今日で、1学期の、国語の授業は終わりだけどこの間にいろんなことが、できるようになってよかった。(\*今年度転校してきた生徒)

### 奥・出雲の細道 生徒の作品

例1. ある夏の日、桜並木の間を通っている時、ふと上を見上げてみるとそこにはいつ変わったのやら前まで綺麗な桜の花だったのが葉桜になっていた。

#### 葉桜が 次の季節の バトンゾーン

夏は近いとしみじみ思う。

例2. 日がまだ高い三時頃。自分は犬の散歩に出かけた。散歩に出かける前、兄さんが「石照庭園」が出来たと言っていた。入場料は五百円と言っていたので、試しに散歩ついでに見てこようと思ったのだ。いつもの散歩道は太陽が降り注ぎ、こないだ来たときとは違う季節だということがはっきり分かる。歩いていると前に大きな看板が見え、それには、「石照庭園」とかいてあった。奥のほうには滝が見え、立派な庭だということがすぐ理解できた。看板の前では、中に入りたいが入れない少年の姿があり、中を見ようと懸命に飛び跳ねている。

#### 水落つる 庭があるのは 石照庭

この少年を、少し眺めて散歩にもどった。

例3. あたまむし

最近、学校の帰りに自転車をこいでいると、ちっちゃい虫がいっぱい集まっていて、ずっと私の頭について来ます。だから、私たちの間ではその虫のことを「あたま虫」と呼んでいます。あたま虫は、学校の帰りに、私たちの頭の上を飛んで、ずっとついて来ます。

#### 帰り道

##### 追いかけてくる

##### あたま虫

こんな虫から逃れるのは、難しいです。

例4. 夏のある日の昼下がり。昼ご飯を食べ終わって、昼寝をしている。その横のちゃぶ台にはよく冷えた麦茶が。そして外ではセミの合唱が響いている。

#### 昼下がり 薫る麦茶と セミの声

夏のよくある昼下がり。

例5. この前泣いた。嫌なこともあったし、疲れてたから泣いた。止まらなかった。そしたら、風が吹いてきた。気持ちがいい夏の風だった。その風にずっとあたっていたら、いつのまにか涙が乾いていた。

#### 気がつけば 涙乾かす 夏の風

### 3 まとめ

#### (1) 楽しい

本実践においては、アンケートや学習記録などから、楽しい古典学習は作れたと考えているが、さらに楽しさの内実を見極めた実践をしていきたいと考えている。

#### (2) 力がつく

それぞれの単元で、目標として掲げた力はある程度養うことができたと考えている。

#### (3) つながる

言葉を使って豊かに暮してゆく生徒を育成する学習、つまり豊かな言語生活につながる学習としては、古典学習は最適のものだと考えている。そういう点で、3行文日記や奥・出雲の細道に現れている生徒の「見る目」や「感じ方」は、豊かな言語生活の実現に結びつく見方や感じ方ではないかと考えている。また、先日、地域で行われた短歌大会に、ほぼ3年生全員が参加し、約4分の1の生徒(32名)が入賞を果たした。言語による表現に関心を持ったり、親しんだりする生徒が育ちつつあると感じている。

#### (4) 課題

##### ～少納言になろう

文章の構造を変換することによって読解を活性化するという考え方は、認知心理学の知見を踏まえた考え方であり、意味マップを用いた読解活動として先に理論的提案と実践がある。今回、散文を詩に変えるという方法で同様の効果を期待したが、散文を一字一句捨てずに詩の形に変えるということにはやはり無理がある場合があるかもしれない。今後この点についてさらに整理したい。

##### バーチャル紀行

仮想旅行によって句を作ることは、先行実践がある。本実践では、本文の読みと仮想旅行による作句とを関わらせることに重点をおき、作句をすることによって本文の読みを深めたいと考えた。二つの作句活動のどちらも楽しく充実したものであったが、本文の読みとの関わりについては十分な検証ができていない。さらに生徒作品の分析や実践を重ねることによって、読解を活性化させる活動について研究したい。

#### (5) コンピュータを用いた学習として

本実践は、古典学習としての提案性よりも、コンピュータを用いた学習としての提案性の方がはるかに重要なものを持っていると考えている。

コンピュータールームのあり方やソフトウェア・ハードウェアのあり方など、国語教師が提案していかなければ、生徒たちは使いにくい教室で使いにくいソフトウェアを使わせられ、不毛な学習が蔓延していくことになるのではないかと危惧している。

古典に関する意識調査(平成 12 年 10 月実施)

